様式第３号

事務事業評価表（内部管理事務等）

評価対象年度	平成 28 年度
１次評価日（主幹等）	29 年 3 月 31 日
２次評価日（課長等）	29 年 3 月 31 日

１ 事業名	道水路等維持補修事業			コード	141201
２ 担当部課	部等	建設水道部	課等	土木課	作成者 太田知則

３ 事業概要	目的体系	基本目標	快適に生活できる、都市機能の充実したまち	
		政　策	交通網の整備	施　策 道路の整備
	予算科目	道路橋梁総務管理費☑道水路維持補修費	業務委託	一部委託
	実施義務	あり（義務的・標準的事業）	国県補助	あり
	根拠法令	道路法・河川法・道路交通法		

●事業の実施内容（DO）

４ 事業の概要等

＊対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）

事業の概要（簡潔に）		道水路利用者の安全確保のために、道水路の構造物等を良好な状態に維持するよう、破損箇所の補修を迅速に行う。
目的	対象者	市民
	意　図	円滑な道路交通を確保して市民生活の安定を図る

５ 事業の実施内容

＊28年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容

（１）通常のパトロールのほかに、毎月3回、5班編成で道路の定期パトロールを実施した。
（２）河川のパトロールを6班編成で44河川の点検した。
（３）パトロールや市民通報に基づき、道水路施設の破損箇所について65箇所の維持補修工事を行い、道路清掃、土砂浚渫、測量設計、草刈、伐採等24件の委託業務を実施した。
（４）常温プラントで常温舗装合材を55.8ｔ練り、直営舗装を実施した。
（５）冬期道路管理では、凍結防止剤を延べ55回散布し、部分除雪や雪捨て場の整地を実施した。
また、直営による滑り止め砂袋や塩カルの配布を実施した。

前年度の課題への対応	予算の少ない中で、緊急度を見極めた維持工事を実施すると伴に、直営班による側溝や舗装の修繕を行ってきた。 職員の能力向上のため、研修や講習会への積極的な参加に努めている。

６ ア）コストの推移

＊この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）　［単位：円］

区　分		26年度	27年度	28年度	29年度（予算）
① 直接事業費		730,184,074	196,570,200	155,069,162	254,756,000
経常経費		96,583,434	46,993,440	41,164,494	43,456,000
臨時的経費		633,600,640	149,576,760	113,904,668	211,300,000
＊臨時的経費の説明					
② 人件費		30,400,000	22,400,000	30,400,000	30,400,000
正規職員の人数（人）		3.80	2.80	3.80	3.80
③ 合計コスト（①＋②）		760,584,074	218,970,200	185,469,162	285,156,000
前年度比			28.8%	84.7%	153.7%
財源内訳	一般財源	147,897,074	156,920,200	89,962,162	91,406,000
	特定財源	612,687,000	62,050,000	95,507,000	193,750,000
＊特定財源の説明		社会資本整備総合交付金、公共事業等債			
④ コストに関する補足説明					

イ）負担金、補助金、交付金の状況

［単位：件、円、%］

負担金補助金		26年度	27年度	28年度	29年度（予算）
社会資本整備総合交付金	件数	4	4	3	4
	金額	20,751,500	35,750,000	23,607,000	89,650,000
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
ア）の①に含まれる負担金等合計金額及び割合	合計金額	20,751,500	35,750,000	23,607,000	89,650,000
	割合	2.84%	18.19%	15.22%	35.19%

●改善の内容（ACTION）

7　具体的な課題と改善

課題	（事務を正確に実施し、少ない費用で効率的に事業を行う上で、現在課題になっていること） 舗装長寿命化修繕計画の策定、メンテナンスサイクルの確立をすること。
改善方法	（上記の課題をふまえて29年度以降に実施する、具体的な改善の内容） 積極的に交付金や起債を活用するため、舗装長寿命化修繕計画を推進する。
改善開始時期	平成29年4月

●次年度の計画（PLAN）

8　次年度の方針	継続して実施	9　施策評価による29年度の優先度 *H27年度施策評価表より転記すること	A